

第一六〇回 企画展

昔の学校 その二 寺子屋と私塾



寺子屋の師匠
島田 勇吉 翁



寺子屋の師匠
島田 辰治 翁



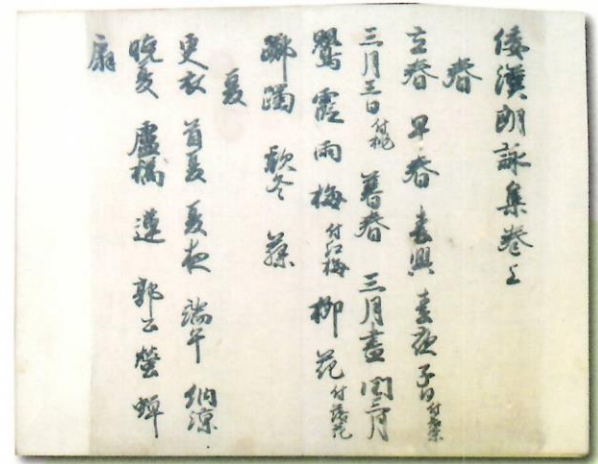
平成21年
12月10日(木)
平成22年
~3月7日(日)

酒田市立資料館

①



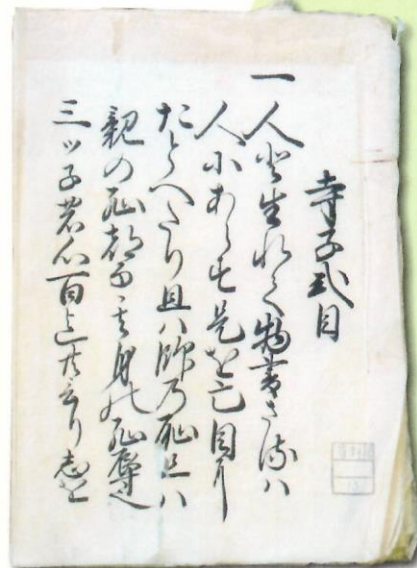
③



②



④



①「亀崎道場」の額

山内成善の塾に
掲げられていた額。

②庭訓往来

初学者の手紙用の模範
として、消息文を集めた
もの。

③倭漢朗詠集

藤原公任撰の歌集で、
漢字と仮名文字で流行歌
が書いてある。

④寺子式目

寺子屋の規則を箇条書
にしたもの。

ギャラリートーク開催 のお知らせ

テーマ
江戸時代の酒田の教育と寺子屋について

日時 平成22年 **1月9日(土)**
午後2時～3時

講師 **工藤 泰治氏**
(酒田古文書温習会 会長)
並びに資料館調査員

場所 **酒田市立資料館1階**

定員 **20名**

料金 **聴講無料**(但し入館料は必要です)

申込 **12月10日から資料館で受付**
☎ 0234-24-6544

酒田の寺子屋と私塾

今回の第160回企画展「昔の学校(その二)寺子屋と私塾」では、江戸期の酒田と周辺地域における教育を寺子屋と私塾を中心に展示しています。江戸時代の日本人の識字率は非常に高く、特に幕末にかけては農漁村部を含めても7割から8割と伝えられ、世界一といわれていました。酒田は湊町で商人の町であったため幕府や藩の文武教育は普及しませんでしたでしたが教育に対する庶民の意識は高く、子弟を寺子屋に通わせ読み書きそろばんを身に付けさせました。さらには高等教育である私塾も開かれ、漢学や医学、庶民に合った心学も学ばれていました。

子弟に教育を受けさせることが義務ではなかった時代「読み書きそろばんは当たり前」という意識を庶民が持ち続け、酒田でも我が子を寺子屋や私塾に通わせましたが、その様子を展示を通して知っていただきたいと思います。

【資料提供及び協力者】

島田良彦氏、庄司美枝子氏、東海林宣一氏、小松原俊氏、伊藤輝一氏、山形県立博物館教育資料館、鶴岡市郷土資料館、松山文化伝承館、酒田市立光丘文庫、酒田市立図書館、酒田市立亀城小学校、山形県立酒田東高等学校

酒田市立資料館

酒田市一番町8番16号 TEL 0234-24-6544
e-mail:sakata-city-museum@fork.ocn.ne.jp

開館時間	午前9時～午後4時30分
休館日	月曜日・月曜祝日の場合は翌日 12月28日(月)～1月4日(月)まで
料金	一般 100円 小学生・大学生 50円 (土・日曜日は小・中学生無料)

次回企画展

『雛人形と桜花』展
平成22年3月11日(木)
～5月9日(日)